アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル　愛南町出身のkikuさんがつづるふるさとエッセイ

ーあいなん音故地新ー　世界の隅々まで

2022年も目まぐるしく過ぎ、また新しい年がくる。どんな年やったときかれたらひとこと、別れの多い年やった。どれも自分自身を成長させるものやったように思うし、そうじゃないといけんな、と思う。ぽっかりと空いた席にはいつか新しい出会いが訪れるやろう。

それとは別に2022年は今まで以上にあらゆるところから、テレビで愛南町を見たよ！愛南町の柑橘（かんきつ）を食べたよ！と声をかけられたような気がする。こんな端っこの小さな町が、東京から一番時間のかかる場所と言われているこの町が。それを聞くたびに嬉しくて、励まされた。私のような人が他にもたくさんおるやろう。日本中の、世界中の愛南町出身者がふるさとの話題に元気をもらっとるやろう。町のみなさんがやっとることが遠く離れた愛南町出身の人たちに力を与える。頑張りは誰かに必ず力を与えるんや。その力が落ち込んだ誰かを救うかもしれん。そんなことを考えながら、微力やけど可能な限り隅々まで愛南町を知ってもらえるような活動をしていきたい、と思う。

新しい年もまたこの町の発展を祈りながら。　（テノヒラkiku）

本日！海日和!! vol.145
「民族衣装」

明けましておめでとうございます。おせち料理でエビを食べた方も多いのではないでしょうか。エビは、腰が曲がるまで長生きをするようにと願いを込めた縁起のよい食べ物だそうです。

ダイビングをしているときに見ることのできるエビも多いのですが、美しい模様の代表格に「サラサエビ」がいます。赤白の縞に、白色の斑点が、更紗（さらさ）模様に見えるのでこの名が付きました。古来より、更紗の布は貴重品で、茶道具などの貴重品を入れる袋に使われていたようです。

体長3cmほどの小さなエビで、集団で岩陰に住んでいます。写真を撮ろうと近づくと、ササッ、ササッ、と波が引くように岩の奥へと後ずさりしていってしまいます。よく見られるエビですが、なかなかシャッターチャンスがありません。何とか苦労して撮った一枚です。

【更紗海老（サラサエビ）】

私事ですが、今年還暦を迎えます。年齢に負けず、サラサエビのように美しく、ピョンピョン元気に跳ね回る年にしたいものです。

（撮影地：カンノン）

愛南サンゴを守る会　西尾知照（ともてる）